

# 保育士の処遇改善を

## 答 前向きに検討



脇田 義政 議員

問 子ども子育て支援

新制度が始まって一年、相変わらず待機児童が問題となっている。

保育士の有効求人倍率は全国的に高い。

保育所を増やしても保育士が不足しているので、待機が発生している。

町の待機児童の状況と待機が発生し、解消しない主な理由は、子育て支援課長

現在57人が待機となっている。その内0歳児から2歳児までが51人という状況。

主な要因は、求職中も入所申し込みが可能となり、申込者が増えたこと。

3歳未満児について、保育士の確保ができなかった。

問 保育士が不足している大きな原因は、保育士の賃金や処遇が低く抑えられていること。保育士の賃金は、教員

と比べて月額で13万円低く、全業種と比べても11万円低いと言われている。

町の保育士の賃金及び賃金構造はどのようになっているのか。

課長 保育士の賃金は、現在、2種類で、担任保育士は、月額22万100円、担任以外は月額16万5,900円。

問 年収200万円から260万円位で、税、保険料を差し引かれると手取りは僅かである。まさに非正規公務員のワーキングプアと呼ばれる所以である。

このように低い賃金にもかかわらず、保育士の仕事は、非常に厳しい実態である。

アレルギーの子どもや特別の配慮が必要な子どもたち（それぞれ約8%在園）への対応や突然死など一歩誤れば命にかかわる仕事を

している。

町長

「子育てをするなら宇美町で、子どもを産み育てやすいまちづくり」を目標に掲げている。

待機児童ゼロを目指し、また、保育の質と量を確保し、安定した保育運営が図られるよう、保育士の処遇改善については、前向きに検討を進めていきたい。



▲早見保育園



大瀬良 利之 議員

# 今後の RDF 事業は

## 答 基本は事業延長

**問** 当町ではクリーンパークわかすぎでごみを RDF 化しており、平成 29 年で 15 年になる。早期に議論する時期に来ていると思うが、RDF 事業についてどう評価しているか。

**環境課長** 現時点は事業の途中であり、直接の評価は早いと考えるが、当初の計画通りにはいっていない。

具体的には処理金額が当初の想定よりも多くかかり、採算性の面でうまくいっていないと感じている。

しかし稼働延長の方向で協議中、健全な事業運営に尽力したい。

**問** 処理委託料は今まで何回値上げしたか。

**課長** 平成 14 年に始まり、平成 16 年、18 年、24 年の 3 回上がっている。修繕費の増加、RDF 搬入量の減少が主な原因。

その後、平成 25、

26、27 年とわずかながら下がっている。

**問** RDF 施設は補修をして事業を継続するのか、解体するのか。費用はどれくらいになるのか。

**課長** 基本的には適切な補修をしたうえで事業を延長する方針。費用は試算していない。

**問** 会計検査院の RDF 施設に対する指摘についてはどう受け止めているか。

**課長** 全国的に運営費がかさんでいる施設が多い状況であり、実際宇美町が加入している RDF 事業も高めであると分析している。

**問** 今後どのような廃棄物処理を行っていくのか。

この議論を早急に進めるべきだと思いが見解はどうか。

**町長** 県は平成 34 年まで大牟田リサイクル発電事業を継続するので、当町もこれに沿っていくべきだろうと判断している。

その後は関係自治体と協議することが大事

だと思う。  
平成 28 年度中には一定の方向性を定めなければと思っている。

### その他の質問

◆し尿処理施設契約は



▲宇美町がごみ処理を委託しているクリーンパークわかすぎ